

## 日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

西本雅人

2023年度の「THE TEACHER OF THE YEAR」を頂き、ありがとうございます。選んでくれた学生のみなさん、そして支えて頂いた教員のみなさま、この場を借りてお礼申し上げます。今年の3年生の印象について、1年生の頃はやんちゃそうに見えていましたが、学年が上がるにつれて建築や都市環境の勉強に打ち込むようになる姿が見えてきて、成長が良く分かる学年でした。新型コロナウイルスの感染対策が緩和されていき、大学で学生を見る機会が増えてきたせいかもしれませんが、当時の3年生たちが大学の製図室でよくふざけたり笑っている姿がとても印象に残っています。今回も今年度、授業関係で取り組んできたことやニュースを振り返りたいと思います。

### 「教科書のアップデート」

僕が優秀教員に選ばれたのは「建築計画各論第二」の授業が大きな要因かなと思っています。この授業は学校、図書館、美術館、病院など普段利用している施設の計画するポイントを解説する内容で、もともと学生がイメージしやすい内容という利点があると思っています。そこに、建築士の試験問題を意識した構成にしていることが今の学生のニーズに合わせて評価されているのだろうと捉えています。

建築士の資格は大学院生でも受験することができるようになりました。受験がしやすくなったことで、学生が大学の授業に対するニーズも変化していると考えています。しかし、数多く販売されている建築計画の教科書はどれも今の学生の要望とは違った内容のものが多く、建築士の問題とはかけ離れているように感じており、個人的に満足いくものはありませんでした。

そんな中で偶然、使用している教科書の編集グループに声をかけていただき、今年度は教科書の改編作業を行なっていました。編集会議で今の学生の要望を話すと、賛同している他大学の先生もいらっちゃって、どの大学でも共通して見られる変化だと感じました。来年にかけて、編集作業は続きますので、よりよい教科書にアップデートできるように頑張りたいと思います。

### 「優秀作品のアーカイブ」

Googleクラスルームはオンライン授業に欠かせないツールになりました。僕の中では画期的なツールで学生への資料配布や連絡はこれがないとやっていけないくらいです。このGoogleクラスルームをもっと活用できると考え、設計演習の過去の優秀作品を閲覧できる「優秀作品アーカイブ」のクラスルームを作成しました。

設計を担当している先生方のご協力もいただきながら、過去の作品を随時、掲載しています。「あの先輩の名前がある！」「この人はいつも名前が載っているなあ」などクラスルームを通じて縦のつながりが生まれればよいと思います。基本的には自由参加のクラスルームですが、現在、145人の学生が参加してくれており、多くの学生に見てもらって嬉しいです。引き続き、正規の授業以外でも学生が学びやすい環境づくりを提供したいと思います。